

腎臓代謝内科「蛋白尿、高血圧外来」のご案内

尿検査の異常や高血圧をそのままにいませんか？

当院では、毎週金曜日の午後1時より、蛋白尿陽性あるいは高血圧を指摘された方のための外来を行っております。

今なぜそのような外来が必要なのでしょう？

最近、「慢性腎臓病」について、テレビや雑誌等でも取り上げられるようになり、ご覧になったことのある方も多いはずです。医療関係者の中では慢性腎臓病のことを、CKD(chronic kidney disease)と呼んでいます。簡単に言うと、蛋白尿が持続的に出ている、あるいは、「血清クレアチニン」という腎臓機能をみる数値が正常より高い場合をそう呼びます。

このコーナーではその「CKD」に関するお話をします。

現在日本の透析患者数は、30万人を超えており、アメリカに次いで世界第2位です。これは日本の人口のおおよそ500人に1人に相当します。しかし、透析に至る患者さんは氷山の一角であって、CKDを潜在的に有する日本人は1300万人以上もいるという事が、最近、日本腎臓学会から報告されました。これは成人人口の約13%を占めるという驚くべき数字です。

それではなぜこのCKDを放置してはいけないのでしょうか？

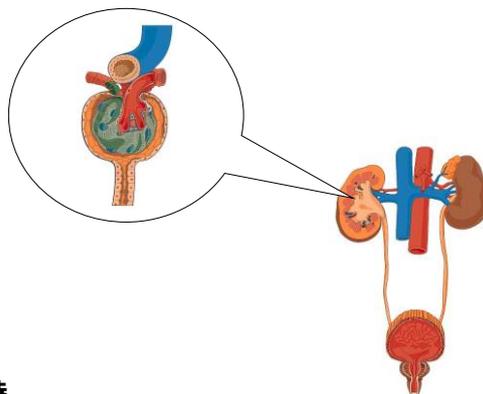
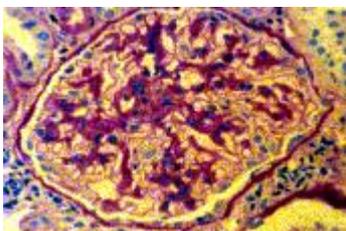
当然進行すれば週3回の血液透析が必要となります。でもそれだけではありません。CKDを放置すれば、高血圧や動脈硬化が進行し、心筋梗塞や心不全、あるいは脳梗塞や脳出血などの心血管病をおこすリスクが、通常より約3倍も高いことが最近の疫学調査で解明されました。しかもある程度CKDが進行してしまうと、完全な回復が望めなくなるばかりか、そのような全身の恐ろしい合併症をおこす可能性が高くなるのです。

すなわち「stop the CKD」、慢性腎臓病の早期発見、早期治療がいかに重要かということに尽きます。ただし、慢性腎臓病CKDと言っても、その原因は多種多様です。種々の糸球体腎炎、糖尿病、高血圧、膠原病など…何十種類もあります。そのため、まずはどのようなタイプの腎臓病かを診断する必要があり、場合によっては血液尿検査だけではなく、入院して「腎生検」という特殊な検査をする必要がでてきます。この検査はうつぶせになって痛み止めの局所麻酔をした後に針で腎臓の細胞を少しだけ採取するものです。当院の腎臓内科医は皆、東京女子医大を中心として十分な研修並びに経験を積んでおりますので、安全にこの検査を行い、かつ正確な診断をすることができますので安心して受けていただけます。腎生検をおこなうことで、より適切な治療を早期に行うことが可能になります。入院期間は7日前後で可能です。また、この7日間で頸動脈エコー検査、下肢脈波検査等の全身検査も一緒に行

うことが可能です。

そして、もう一点、高血圧についてですが、当然、放置したらやがて心臓病や腎不全、脳血管障害など重篤な疾患を併発してきます。高血圧の原因も、特にはっきりしないものから慢性腎臓病やホルモンの異常によるものなど様々なものがあることをご存知でしょうか？「特に何も症状がないからいいや」と気楽に構えていると大変なことになります。まず受診していただき、きちんとした検査を受けた上で治療を開始すべきです。当科では24時間血圧を含む各種検査をおこない、適切な治療をおこないます。

もし職場などの検診で、尿異常あるいは高血圧を指摘された方がいらっしゃいましたら、お気軽に当院、腎臓代謝内科までお問い合わせくださいませ。



診察日 毎週金曜日 午後1時～3時

担当医 内藤 腎代謝内科部長